

富山発 ～地球共生マインド～

1 自治体名：日本富山県

2 発表者名：廣岡 愛波 (HIROOKA Manaha)、藤井 志帆 (FUJII Shiho)、高島 拓馬 (TAKASHIMA Takuma)
富山国際大学付属高等学校 2 年生

3 活動を始めた経緯等

(1) 各種講演参加、活動発表：2001 年から、学校や各種団体で実施
高校主催の国際理解講座や富山ジオパークの可視化ワークショップ、環日本海環境協力シンポジウムなどに参加し、地球規模の諸問題について知り、多角的な視点で解決策を模索している。活動で得たことを、文化祭や弁論大会において多くの人に向けて発表し、協働の輪を広めている。



(2) 幸せ遺産プロジェクト：2015 年から、国際英語コースとユネスコ部が中心になって実施
「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」の 17 目標を達成するためにはどうしたらよいかについて、様々な活動を通して考えている。世界各国にある 7 つの姉妹校の生徒達と共に、後世に残したいものを 100 の遺産選定を行っている。



(3) 清掃活動：1999 年から校内のリーダーやユネスコ部により実施
学校の近辺や富山湾の海岸清掃を定期的に行っている。特に、富山湾の清掃において漂着物の調査を行い、私たちの生活の在り方を考える機会としている。



(4) エコキャップ回収活動：2005 年から、学校全体で実施
環境保全と発展途上国の子どもたちを救うことなどの社会貢献を目的とし、ペットボトルのキャップを回収している。キャップ約 860 個で 1 本のワクチンに換えることができ、一人でも多くの子どもたちを救おうと呼びかけている。



(5) 服のカプロジェクト：2011 年から、学校全体で実施
UNCHR やユニクロと協力し、不要になった洋服を世界の貧しい子どもたちに届けている。本来なら廃棄する洋服を有効活用することで、生活の中から難民救済の意識を高める。



(6) 国境なき医師団寄付：2017 年から、学校全体で実施
募金自販機を設置し、売り上げに比例して利益の一部を MS F (国境なき医師団) に寄付している。生徒会が生徒に呼びかけ、国際協力の理念を共有している。

4 発表要旨：

学校主催の国際理解講座において環境破壊問題や貧困問題などの地球規模の諸問題を知ること、国際協力の理念を共有している。さらに、2012 年からユネスコスクールに認定されたことを機に、幸せ遺産プロジェクトを始動した。「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」の 17 目標を達成するため、世界各国にある 7 つの姉妹校の生徒達とともに、後世に残したいもの 100 の遺産選定を行っている。地球市民として我々の住む美しい地球を保全するために私たちにできることとして学校近辺や海岸清掃に従事し、ペットボトルのエコキャップ回収や募金自販機を活用して国境なき医師団に寄付、不要な洋服を途上国に贈る「服のカプロジェクト」を継続活動することで、自分たちでできることを社会貢献に繋げている。2017 年 12 月に「環日本海環境協力シンポジウム」に参加した際、日本の海洋保全のためにはアジア諸国が連携し解決しなければならないと痛感した。それから、富山ジオパークの可視化ワークショップに参加し、2020 年のユネスコ世界ジオパーク認定を目指している立山黒部の環境保全のための「看板作り」を学識者とともにやっている。

これらのマインドをアジア諸国の方々に共有し、次世代に美しい地球を引き継いでいけるよう、働きかけていきたい。